

委員会研修報告

総務企画委員会

視察地 兵庫県宍粟市

テーマ 農地付き空き家の活用について（10月28日）

宍粟市では、毎年約500～600人程度の人口が減少しており、人口減少、少子高齢化による様々な問題に対し、非常に危機感を感じている。その問題の1つに空き家の増加、それに伴う不在地主による遊休農地の増加がある。その解決方法を市と農業委員会でともに検討する中、近年「農ある暮らし」を希望し、家庭菜園程度の農地を求める田舎への移住希望者が増えているという状況を踏まえて、平成28年度から空き家を活用した移住・定住を促進するため、空き家に付く農地に限り別段面積を1アールから設定し、空き家と農地をセットにしたバンク制度を開始した。

また、平成27年度から固定資産税の納税通知書の封筒裏に空き家バンク制度の広告掲載をしたところ、市外及び県外からの問い合わせが多く、空き家バンク登録物件数及び成約件数も増加していった。

さらに移住者に対し、定住促進コーディネーターと職員で移住者宅を訪問し、相談を受けるなど、移住後のフォローアップにも力を入れている。



全員協議会室にて
オンラインによる研修



福祉文教委員会

視察地 栃木県佐野市

テーマ 佐野市立あそ野学園義務教育学校の運営
について（10月13日）



あそ野学園にて

佐野市立あそ野学園義務教育学校は1つの中学校、6つの小学校を統合し、令和2年4月に開校した義務教育学校である。

小中一貫の義務教育学校となったことで、中1ギャップの解消が図られ、中学生の存在が身近となった。一方で、6年生の自立性が課題となるが、対策として1年生から9年生が参加する運動会の実行委員を6年生に任せることで、リーダーシップや協調性、自主性を育むようにしている。

スクールバスについては、従来の中学校区で使用していたエリアを引き継いで運用しており、利用できる範囲を前期課程は4キロメートル以上、後期課程は6キロメートル以上を基本としている。路線、停留所は個別の状況については検討しながら対応しているが、部会で決定したものを原則として運用しているところである。

経済土木委員会

視察地 ①主要地方道筑西つくば線
②(仮称)上曾トンネル(桜川区)
③三井不動産ワールドファーム(株)カット野菜工場
テーマ 「経済効果に関する取組」について(11月7日)

主要地方道筑西つくば線は、旧下館市から旧明野町の中心部を通り、つくば市に至る重要な幹線道路である。しかし、交通量が多いことに加え、幅員が狭く歩道もないことから、平成7年度にバイパス整備に着手し、現在事業を進めている。

(仮称)上曾トンネル整備事業は、桜川市と石岡市間を結んでいる上曾峠の下を、新たにトンネルとしてつなぐ幹線道路整備事業である。この整備により、災害時の緊急輸送道路としての利用や、東西地域間の交流促進・地域振興に大きく期待がされている。

三井不動産ワールドファーム(株)では、農業の作業プロセスをより効率化し、効果的な人材育成を行う「持続可能なスマート農業事業」を進めている。本工場では、自社圃場で生産したキャベツの冷蔵・加工までを一気通貫で行っており、施設見学後は、付近の圃場の見学を行った。



主要地方道筑西つくば線にて



(仮称)上曾トンネル内にて



三井不動産ワールドファーム(株)圃場にて

議会運営委員会

視察地 茨城県議会

テーマ 議会改革の取組について(11月25日)

茨城県議会は、議会改革推進会議を設置し、積極的な議会改革を進めている。議会改革の主な取組は、基本条例の見直し、委員会審査の充実、ICT化の推進、住民参画の推進などである。

基本条例の見直しでは、議会活動への住民参画の推進、災害等の発生時における議会の対応を新設するとともに、議会の監視機能の強化のため、重要な政策等の説明の義務化などの改正をしている。

ICT化の取組では、令和2年にタブレット端末を導入し、議案や本会議、委員会の会議録についてのペーパーレス化を図っており、次期改選後に完全ペーパーレス化を目指している。また、タブレット端末導入に併せ、災害等非常時におけるオンラインでの委員会審査も検討し、委員会条例を改正している。

住民参画の取組では、大学連携事業、議会モニター制度、休日議会の開催、青空対話会議などを行っている。



茨城県議会にて



茨城県議会議場にて